

業績ハイライト

平成26年3月期の決算

貸出金残高は増加したものの、市場金利の低下を主に資金運用利回りが低下し、資金運用収益が減少しましたが、貸倒引当金が戻入益となったことなどから、経常収益は前事業年度比1億67百万円増加し420億円となりました。

経常利益につきましては、資金利益が減少したものの、信用コストが減少したことなどにより、前事業年度比18億73百万円増加し74億49百万円となりました。

当期純利益につきましても、これらの要因により、前事業年度比27億72百万円増加し49億54百万円となりました。

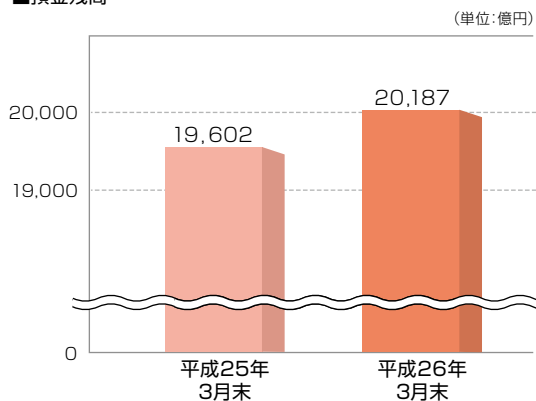
預金・貸出金等の状況

平成26年3月末の総預金残高は、個人預金、法人預金ともに堅調に増加したことから前年比585億円増加し2兆187億円となりました。また、預金以外の個人預かり金融資産残高は、前年比195億円増加し2,949億円となりました。

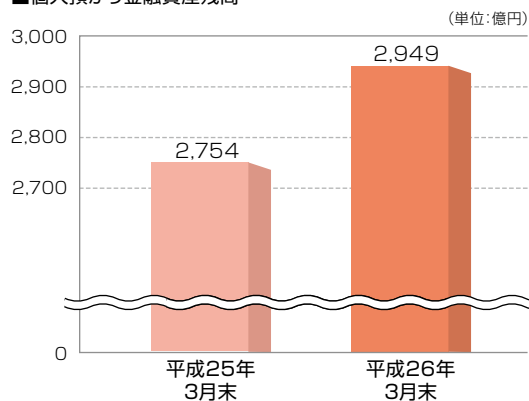
一方、総貸出金は事業性貸出金が増加したことに加え、住宅ローンを中心に個人ローンが増加したことから前年比429億円増加し1兆2,887億円となりました。

(注)個人預かり金融資産残高は、投資信託、生命保険、公共債の合計であり、外貨預金は含んでおりません。

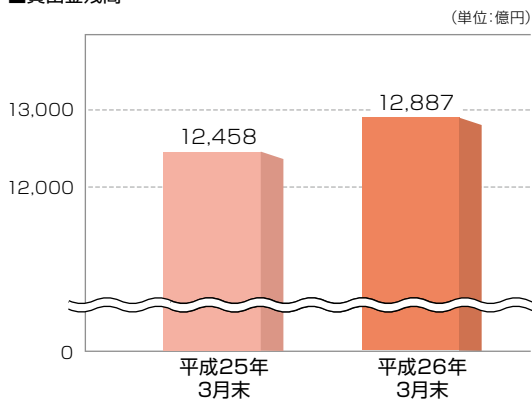
■預金残高



■個人預かり金融資産残高



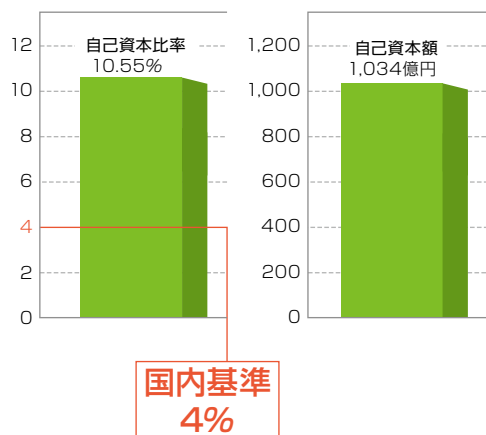
■貸出金残高



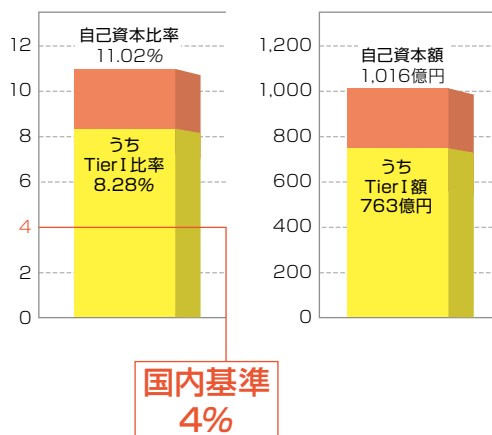
自己資本比率

自己資本比率(国内基準)は平成26年3月末からバーゼルⅢを基準としたものに変更となり、10.55%となりました。

■平成26年3月末(バーゼルⅢ、国内基準)



■平成25年3月末(バーゼルⅡ、国内基準)



不良債権の状況

債権総額中に占める金融再生法開示債権(いわゆる不良債権)比率は、平成25年3月末の3.72%が平成26年3月末には3.22%となりました。

なお、当行は部分直接償却を行っておりませんが、部分直接償却を行った場合のこの比率をみますと、平成26年3月末で2.88%(平成25年3月末では3.23%)となっております。

■平成26年3月末の不良債権の状況

